令和元年度第6回古賀市子ども・子育て会議 議事録

開催日時	令和2年2月3日（月） 14：00～		
開催場所	サンコスモ古賀 203 会議室	公開の可否	可
事務局	保健福祉部子育て支援課	傍聴者数	-
公開しなかった理由			
出席者	委員	森保之会長、桑野嘉津子委員、薄秀治委員、伊豆剛直委員、青木扶美子委員、梯裕子委員、末次威生委員、神崎美春委員、藤田勉委員、前野恵理委員、神谷実枝委員、金子美聡委員、久保田純子委員	
	事務局	足立子育て支援課長、渋谷子育て支援係長、佐藤子育て支援係員	
	その他	なし	
議題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和元年度第5回会議の議事録について ・ 特定教育・保育施設の利用定員変更の答申について ・ 第2期子ども・子育て支援事業計画（案）パブリック・コメント実施結果について ・ 第2期子ども・子育て支援事業計画（案）について ・ 古賀市子ども・子育て支援事業計画の策定について答申（案） 		
配布資料	<ul style="list-style-type: none"> ○資料1 「令和元年度第5回古賀市子ども・子育て会議の議事録」 ○資料2 「特定教育・保育施設の利用定員変更について」 ○資料2-1 「令和2年度の特定教育・保育施設利用定員及び変更について」 ○資料3 「第2期子ども・子育て支援事業計画（案）パブリック・コメント実施結果」 ○資料4 「第2期子ども・子育て支援事業計画（案）」 ○資料5 「古賀市子ども・子育て支援事業計画の策定について（案）」 		

○次第

1. 開会あいさつ
 2. 会長あいさつ
 3. 令和元年度第5回会議の議事録について（資料1）
 4. 特定教育・保育施設の利用定員変更の答申について（資料2）
 5. 第2期子ども・子育て支援事業計画（案）パブリック・コメント実施結果について（資料3）
 6. 第2期子ども・子育て支援事業計画（案）について（資料4）
 7. 古賀市子ども・子育て支援事業計画の策定について答申（案）（資料5）
 8. その他
-

令和元年度第6回古賀市子ども・子育て会議（概要）

1. 開会あいさつ
2. 会長あいさつ
3. 令和元年度第5回会議の議事録について（資料1）
特段修正意見なく、承認される。
4. 特定教育・保育施設の利用定員変更の答申について（資料2）
会長から保健福祉部長へ答申を行う。
5. 第2期子ども・子育て支援事業計画（案）パブリック・コメント実施結果について（資料3）
事務局より資料3に基づき報告を行う。特段各委員からの意見なし。
6. 第2期子ども・子育て支援事業計画（案）について（資料4）
事務局より資料4に基づき説明を行う。
(委員) 認定こども園の状況のグラフ(18ページ)について、「箇所数」の折れ線グラフが見にくく、29年も30年も1か所ですので、折れ線グラフは外してはどうでしょうか。
(事務局) ご指摘通りですので、箇所数の折れ線グラフは入れずに、文章で説明します。
7. 古賀市子ども・子育て支援事業計画の策定について答申（案）（資料5）
事務局より資料5に基づき説明を行う。

- (委員) (1) 基本目標1の4行目に「小さな成功体験」とありますが、例えば、大きな成功体験でも構わないと思います。あえて限定しなくてもいいのではないかと。
- (事務局) たくさんの体験を積み上げていくというイメージで表現しましたが、ご指摘にありますように、小さくても大きくても成功体験に違いはないと思いますので、修正します。
- (委員) (2) 基本目標2の2行目「児童虐待の適切な対応をはじめ」とありますが、先に「支援が必要な子どもや保護者に対する早期発見・早期対応の推進に努め」と述べたほうがよいと思います。
- (事務局) 児童虐待も早期発見・早期対応が大事と考えており、同じように、53ページの「要保護児童及び要支援児童等の対応」のところでは、「虐待の早期発見、早期対応ができるよう、連携強化していく」と記載しています。
- (会長) 53ページでは最初に「適切な保護及び支援を実施します。また、児童虐待に対しては」という並びになっていますので、ご意見の通りでも問題はないと思います。「支援が必要な子どもや保護者に対する早期発見、早期対応の取り組みの推進に努めていただきたい。特に、児童虐待の適切な対応については、関係機関との連携を強化していただきたい」としてはいかがでしょうか。
- (事務局) ありがとうございます。では、その表現に改めます。
- (委員) 基本目標1の「子ども」と「子どもたち」という表現の違いが気になります。「子どもたちが安心して過ごせる多様な居場所や遊びの場」とありますが、不登校や行き渋りの子どもについての相談が近年増えていますので、そのような子どもたちも含めて「子どもたち」と表現されているのだと思います。どのような状況でもすべての子どもたちに、という意図が明確に伝わるよう、「どんな子どもでも」「すべての子どもも」と表現できればよいと思います。
- (事務局) 冒頭の「子どもが」という部分を、「子どもが心身共に健やかに育つために、すべての子どもたちが安心して」という表現に変えたいと思います。
- (事務局) ここで、文言の訂正箇所があります。基本目標4の1行目「保育ニーズや幼児教育ニーズを把握しながら」とありますが、基本目標4が「教育・保育提供体制の充実」となっていることから、「幼児教育ニーズや保育ニーズを把握しながら」と文言を入れ替えようと思います。また、基本目標5の1行目から2行目では「います」と「ですます調」になっていますが、「である調」に統一したいと思います。
- (委員) 基本目標4の上から4行目に「組織体制等の充実」とありますが、「組織体制」とは何を指すのか、イメージしにくいと思います。
- (事務局) この意味としては、現場の方がニーズに対応するため大変努力して教育・保育の提供を行っている中で、制度だけ変えても現場は追いつかない部分がある、市全体で支えてもらう必要があるというご意見を本会議でいただきましたので、「組織体制の充実」という表現にした経緯があります。文言として理解しにくく、うまく伝

わらないのであれば変更したほうがよいと思います。

(委員) 「組織体制」という言葉は、聞いてすぐにイメージができる言葉ではないと思いますので、用語解説にあるのかと思いました。もう少しわかりやすい表現ができればよいと思いました。

(委員) その前に「量と質のさらなる充実のため」とありますので、量という点では「教諭や保育士の確保」、質という点では「施設や組織体制の充実」に当たるのかと思いました。

(委員) 組織体制を単なる「サービス」もしくは「教育・保育サービス」のどちらかにしてはいかがですか。量と質は保育士の確保が量、箱ということで施設の充実と支援の内容が質ということで記してはいかがでしょうか。シンプルにするのであれば、「施設やサービスの充実に努めていただきたい」でもよいと思います。

(委員) 97 ページでは、質の向上ということで、研修が挙がっています。研修の充実ということも、大きいと思います。

(事務局) 質の向上のための保育士や幼稚園教諭への研修等については、もともと事務局案で挙がっていました。ですが、委員から、現場では最善の努力をしている中で、保育士は保育に加えて膨大な事務作業に追われている現状もあり、いくら研修を実施してもらっても効果が期待できないかもしれないというご指摘がありました。質の向上といっても、組織全体を支えていけるような体制づくりに努めていただきたいというご意見がありましたので、基本目標4(3)の方向性には「保育士や幼稚園教諭への研修」という文言を入れていません。したがって、本会議において、ハード面、ソフト面を、あえて「組織体制等」という文言にしようということで、審議されたと記憶しております。

(委員) 現場では事務作業等も非常に増え、研修も実施したいけれども手が回らない状況になっているという現状で、それもサポートしていかなければいけないのではないのか、そのような組織を支える体制も必要だということだったと思います。ただ、この表現ではそれが伝わらないということですので、用語解説に入れるのか、今の説明を入れ込むか、いつ読んでも伝わるようにする必要があると思います。

(会長) 「組織体制」という文言に注釈をつけてもいいと思います。

(委員) 「施設や組織体制等」と並べたときに、「施設」が量を意味し、「組織体制」が質を意味していると解釈してよいということですか。

(委員) 施設を増やすということなら量ですし、施設をよりよいものにするということであれば質になると思います。

(事務局) 「施設」という言葉を省き、「幼稚園教諭や保育士の確保等の取り組みを進めると共に、柔軟に対応できる組織運営体制等の充実に努めていただきたい」という文言はいかがですか。それであれば、質についても、量についても表現できていると思います。質を高めるためには、組織が研修や働き方、事務作業についても「柔軟に」

対応できるものでなければいけないと思います。そのような組織になるように努めていただきたいという流れだと、カバーできると思います。

(委員) ただ、組織を運営するのは幼稚園や保育園の方々ですので、体制の充実に対して直接努めるのは園の先生方だと思います。答申として市に対するお願いとしては、「支援に努めていただく」となるのだと思います。

(委員) 質の向上が言われていますが、現在は2種免許の方が多く、1種免許の方を確保することで、私立幼稚園として国にも認めていただきたいという流れですが、2種免許の方と1種免許の方とは報酬も違い、1種免許の方が増えると経費も増え、保育料の値上げにつながるという面もあります。市立幼稚園は無償化になり、人を雇わなければいけないような大変な現状になっています。そのような部分を市に助けていただければ、確かに質の向上にもつながると思います。幼稚園や保育園だけでなく、すべての学校に対しても市の支援が届くとよいと思います。

(会長) 最初の質問に戻りますが、「施設体制」は何を指すのか、必要なか不要なのかということです。さらに、組織体制は変える必要があるのか、このままでよいのか、いかがですか。

(委員) 人の確保の必要性は、幼稚園と保育園に限らないと思います。現状はいかがですか。

(委員) 公立小中学校の義務教育の人の確保は、県教育委員会に求めるべき問題です。

(委員) 幼稚園と保育園については自前で準備をしなければいけません。この数年で制度が一気に変わり、無償化で入園希望が増え、人の確保が難しくなりました。待機児童を発生させたくないで、市からも各私立幼稚園等に受入れの要請がかかります。受け入れるためには人を確保しなければいけませんので、より支援が必要だという話になっているのだと思います。「なぜ、市が支援をしなければいけないのだ」という感覚になると困りますので、そもそものところをご理解いただきたいと思います。受入れの人数を制限するわけにはいかない事情が出てきたということで、このような支援が求められているのだと思います。

私立保育園連盟と私立幼稚園連盟と古賀市がタイアップして取り組んでいき、他市に流れていく保育士や幼稚園教諭を引き留め、古賀市で働いていただきたいということだと思います。そのような、市と園の連盟が連携して行うということで、サービスの充実のための支援に努めていただきたいということです。ですから、この部分は必要だと思いますし、市も期待している部分だと思います。

さらに、制度の変更に伴い、事務作業も増えており、保育士の負担が増えています。業務が大変になっている上に、普通の資格制度の中で働いている看護師等にくらべると、給与が少ないということで、なり手が減っているという実状もあります。これ以上、仕事を増やすことはできない中で、組織の支援やバックアップもしていきたいということです。

これらを一言でまとめることは難しいと思います。内容が網羅できれば、文言につ

いてあまり気にしなくてもよいのですが、いかがですか。

(会長)「組織体制」という文言を省けばよいと思います。人員の充実のための取組を進めてほしいと、簡潔に記せばよいと思います。もう1点は、施設整備の充実の支援に努めていただきたいということを記せばよいと思います。

(委員) 施設整備というと、箱物のイメージがあります。

(委員) 箱物の問題ではないと思います。待機児童解消のために保育園を増やしても、なり手がありません。

(委員) 1つの施設ができれば、30人ほどの人員が必要です。今年度、福津市には4園できますので、120人ほどの人員が見込まれています。それほどの数の保育士や教諭はいませんので、現実的に秋ぐらいから争奪戦になると思います。そのようなことも視野に入れて進めていかなければいけない地域なのです。

(委員) 子どもの定員はあっても、先生方が集まらないので、定員に満たないという現状です。

(事務局) そこでの働きやすさというものが今後の課題だと思います。それを各園で構築するというのであれば、この場では触れなくてもよいと思いますが、それほど人が集まるとは考えられませんので、確保のための合同就職説明会等を実施しているのが現状です。ただ、実施したから人が集まっているというわけでもありません。この場では、答申としての皆さんのご意見をまとめていただければと思います。

(会長) 人の確保と共に、そのための働きやすい環境づくりが求められます。「働きやすい環境づくりのための支援」という文言でよいと思います。

(事務局) ありがとうございます。では、その表現に改めます。

8. その他

事務局から答申書の手交式について案内。2月21日(金)9時30分を予定。

また、委員から質問があり、内容については以下のとおり。

(委員) 現在、すでに施行されている子ども・子育て支援事業計画について、お母さん方に尋ねられることがあり、この場で皆さんのご意見をうかがいたいと思い、発言だけさせていただきます。

- ・不登校の数は把握されていると思うが、行き渋りの児童数は把握していますか？
- ・計画の中にも「多様な子どもたちの居場所をつくる」とあるが、あすなろ教室に通うことができない児童・生徒については、どのような支援がありますか？
- ・無償化も大きく影響していると思うが、「幼稚園や保育園に早期に入れなくてはいけない」という流れがあります。「早く園探しを始めないと通えなくなる」と多くの保護者から聞いており、大人の都合で、子どもの育ちにとって本末転倒なことが起こっていると感じるので、実状を教えてください。子ども・子育て

条例ができたが、条例のことを知っている人がまだ少ないので、早急に条例に関して理解を深める場も必要と感じています。

(事務局) 1点目の不登校や行き渋りの現状については、教育委員会に確認した上で報告します。

2点目については、現場の実情について委員の皆さんからお話いただければと思います。

3点目の条例については、今年度に限らず、今後長い期間で啓発していく必要があると考えています。まず、今年度は「小中学校キッズメール」で保護者に一斉メールを配信し、条例について周知を図りました。高校生も含めた市内の全児童・生徒にチラシを配布しました。ホームページにも掲載しており、子育てブック（令和2年度版）についても入れていくという計画を立てています。今始まったばかりで、まだ周知が十分でないという反省も踏まえ、継続した啓発事業に努めていきたいと考えております。

(委員) 2点目の質問についてです。入園できない一番の理由は、近隣の市町の影響が大きいと思います。急激な人口増加で、舞の里はすぐ隣が福津市ですので、在園児は福津の子どものほうが多くなっている状況です。在園児のきょうだいは優先になりますので、きょうだい児は優先的に入園します。プレ教室も実施していますが、通う子どもの数が多いのも事実です。ただ、プレ教室を見に行っていないと入園できないわけでもありませんし、子どもでは出席も取っていません。ただ、保護者の意識の中で、「プレに入れていかないと、優先的に入れない」と思われているかもしれません。この1、2年で大きな影響を受けています。

(委員) 保育園の申請は市なので、プレ教室とは関係ありません。保育園には、プレ教室に入っていないと入園できないというような制度はありません。幼稚園の場合ですが、ほとんどの私立幼稚園でプレ教室が行われています。古賀市内にあるかどうかはわかりませんが、回数が多いほうが入園しやすいという園もあると思います。私どもの園では、回数は関係ありません。入園する前の2歳児等は、プレ教室から進級していくという流れが、この数年、確立してきています。現実的に一般の方が入園することは非常に難しくなっています。

また山間部の園には福津市の子どもが通園している場合が多くなっています。新宮町の子どもが多く来られている幼稚園もあります。希望された順に入園していく制度ですので、就労状況の違い等で入れないということはありません。

低年齢化していることは間違いありません。国の制度で3歳になれば無償化ということだと、だれもが預けると思います。そこが無償であれば、母親自身は少し働き、下の年齢の子どもも入園させられるという考え方になります。月に64時間働けば、保育園に入園できます。古賀市でも、今まで出ていなかった待機児童が、無償化と同時に大量に出ています。その受入れ先を市が探さなければいけません。幼

稚園も現時点でいっぱいですので、制限を超えては受け入れできません。就労64時間という条件を120時間にすれば、本当に預けなければ働けない方たちが利用するという形に変わっていくと思います。

月に64時間というだと、1日3時間の20日間、もしくは6時間で5日働けば、保育園に毎日通えます。この現行システムを、私どもが変更することはできませんし、今後、どのように整備されていくのかわかりません。

例えば、私立幼稚園ではどの園でも預かり保育を実施していて、保育園並みの6時半や7時近くまで預っていただけます。幼稚園がその部分で預かっていなければ、待機児童はもっと増え、困る方が増えると思います。そのようなことも市で試算しなければいけません。

(委員) 私どもの園では、1日に80人ぐらいです。保育認定を受ければ、幼稚園で預かり保育を無償で受けることができます。

(委員) 利用しないと損だという考え方をおもちの方もおられます。

(委員) 働かないと生活ができないという方はぜひお手伝いしたいと思います。一方で、家にいる時間よりも、幼稚園にいる時間が長くなっている場合もあります。子どもが小さい間はもっと親子の時間を増やしてほしいという思いはあります。

無償化に伴い、職員も増員しなければいけません。無償化は10月に始まったばかりですので、今後の動きが読めないところは不安です。満3歳が増えて、未就園児の部屋から3歳児専用の教室として1つ用意しなければならないほどです。

(委員) このようなことを十分に話し合い、共通理解をしながら、進むべき道を古賀市の中で見つけることができればよいと思います。

(委員) 1点目の質問についてです。青少年の健全育成の活動に携わっていますが、不登校の問題を抱える子どもの情報を得るのはなかなか難しいです。不登校の生徒はここに来てくださいというやり方では、なかなかつながりませんので、そのような子どもが集まりやすい青少年イベントをやっけていき、それに参画することで、また学校に通えるようになるという取組を考えていかなければいけないと思います。成功しているところもあり、例えば、子どもたちが集まって腕相撲をするという取組をしているところもあるようです。

そのような取組を、この会議の中でできるとよいと思います。どこの学校のどこの子どもかということは、聞いても情報としては挙がってきません。むしろ、逆に、子どもたちが集まれるような活動の場を設け、地域の公民館等で活動することで元気になっていくような取組を進めていかなければいけないと思います。不登校の状況は、なかなか外にはでてきません。また、条例は入口だと思います。難しい形ではなく、このような形では入口を広げ、基本ができれば、詳しい条例文を勉強していただくことができると思います。